

## 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会による、第2回頭頸部疾患に関する認識調査結果

### 調査概要

調査日：2023年6月7日

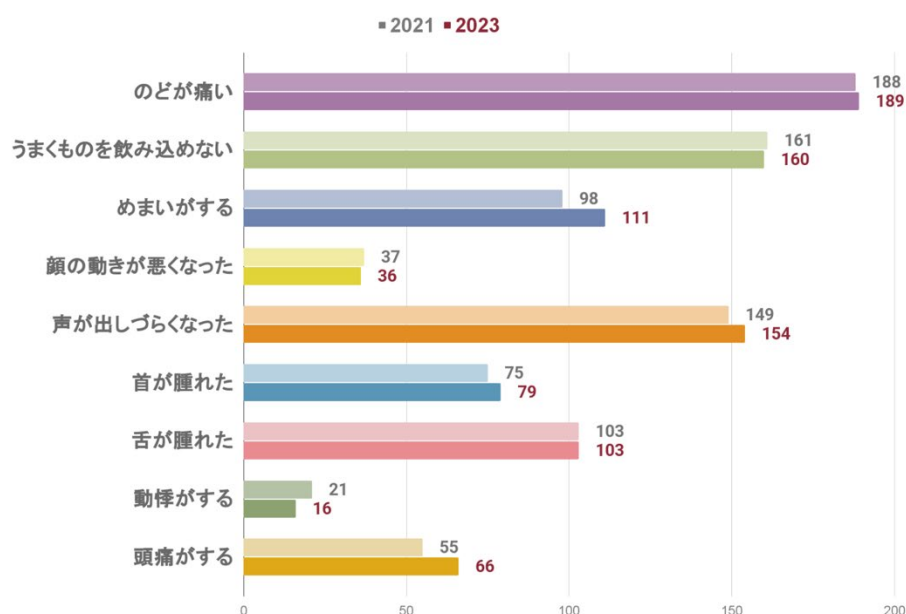
調査パネル：株式会社メディカルノートのメールマガジン会員

回収方法：インターネット調査

回答条件：18歳以上、非医療従事者

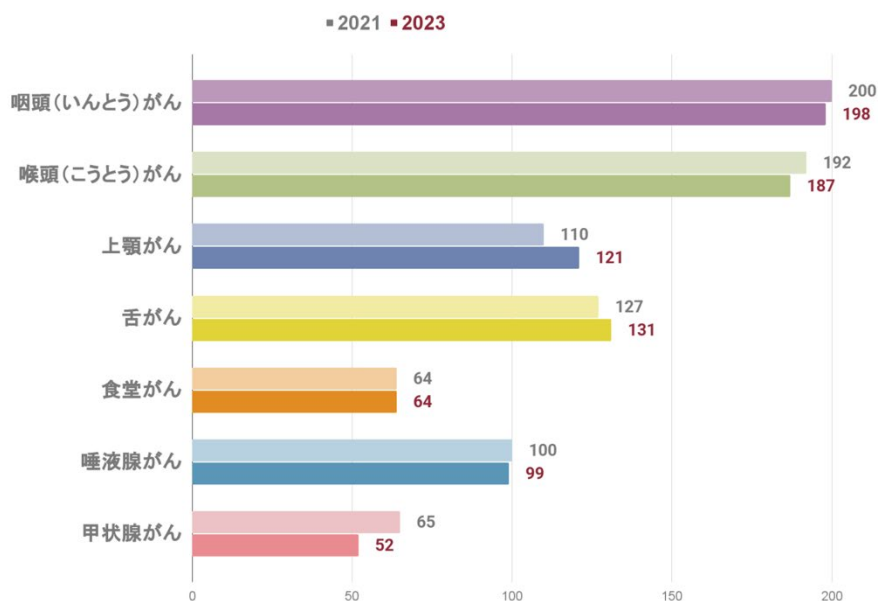
取得した有効回答数：200

Q. 下記のうち、耳鼻咽喉科で治療ができると思われる「症状」をすべて選んでください。



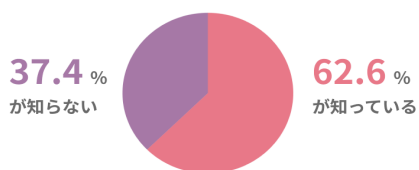
様々な症状を並べ、「耳鼻咽喉科で治療ができると思われる症状をすべて選んでください」と質問したところ、耳鼻咽喉科が得意とする「顔の動きが悪くなった」でも18.0%の認知であり、2年前の調査と同様に低い認知度に留まった。また、「首が腫れた」は39.5%、「舌が腫れた」は51.5%の人しか耳鼻咽喉科で治療できることを知らず、やはり2年前の調査とほぼ同様であった。一方、「めまいがする」のように2年前の49.0%から55.5%に認知が増加している様に見える症状もあった。

Q. 下記のうち、耳鼻咽喉科で検査・治療ができると思われる「がん」をすべて選んでください。

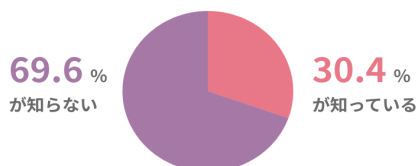


耳鼻咽喉科が治療可能ながんを並べ、「耳鼻咽喉科で検査・治療ができると思われる“がん”をすべて選んでください」と質問したところ、耳鼻咽喉科が得意とする舌がんでも 65.5%、甲状腺がんは 26.0% の人しか、耳鼻咽喉科で治療できることが認知されておらず、2年前の調査と同様に認識が広がっていないことが改めて確認できた。

### 舌がんについて



「舌が腫れた場合に耳鼻咽喉科への受診を考える人」が、舌がんが耳鼻咽喉科で治療できることを知っている割合

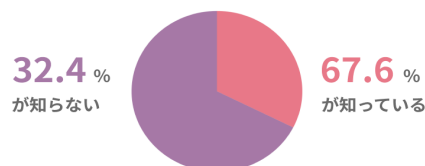


「舌が腫れた場合に耳鼻咽喉科への受診を考えない人」が、舌がんが耳鼻咽喉科で治療できることを知っている割合

### 甲状腺がんについて



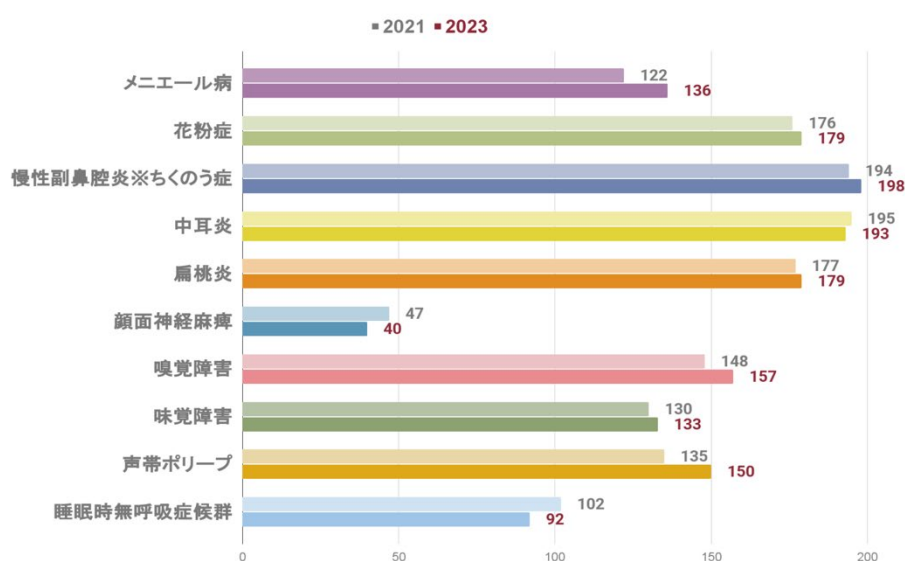
「首が腫れた場合に耳鼻咽喉科への受診を考える人」が、甲状腺がんが耳鼻咽喉科で治療できることを知っている割合



「首が腫れた場合に耳鼻咽喉科への受診を考えない人」が、甲状腺がんが耳鼻咽喉科で治療できることを知っている割合

また、耳鼻咽喉科で治療できると思われる症状について質問した結果をみると、舌が腫れたときに耳鼻咽喉科への受診を考えないの方が、舌がんの治療ができることを知らない傾向にあった。同様に、首が腫れたときに耳鼻咽喉科への受診を考えないの方が、甲状腺がんの治療ができることを知らない傾向にあった。この傾向も2年前の調査と同様であった。

Q. 下記のうち、耳鼻咽喉科で治療ができると思われる「病気」をすべて選んでください



耳鼻咽喉科が専門とする各種の病気についても同様に尋ねたところ、花粉症、慢性副鼻腔(びくう)炎(蓄膿<ちくのう>症)、中耳炎、扁桃(へんとう)炎、嗅覚障害、味覚障害についての理解度が高かった一方、顔面神経まひ(20.0%)睡眠時無呼吸症候群(46.0%)などは非常に低い認識である事が改めて分かった。また、メニエール病(61.0%→68.0)、声帯ポリープ(67.5%→75.0%)のように、2年前の調査より耳鼻咽喉科で治療ができる病気である認識が広がっているように見える病気もあった。

頭頸部は味覚と嗅覚といった生活の質(QOL)維持に大切な感覚器、脳につながる血管や神経、リンパ節などが狭いエリアに集中し、機能を維持しながらがんなどの病気を治療するには高い専門性が要求される。

調査の結果から、耳鼻咽喉科で治療できることが知られていないがんや病気が改めて明らかになった。頭頸部の疾患に罹患した患者さんへ適切な治療を迅速に届けられるように、耳鼻咽喉科・頭頸部外科が幅広い疾患を専門としていることを継続的に啓発する必要性が改めて認識できた。